

令和 年 月 日

保護者各位

子宝保育園園長

保護者の皆さまにご理解いただきたい大切なこと（お子さんのケガ）

日々の生活の中で、皆さんのお子さんは必ずケガをする、ということをご理解ください。すり傷や切り傷だけはなりません。歯が折れる、骨折をするといったできごとにも十分に起こりえます。それは保育園に限らず、ご家庭でも起こります。生まれた直後から、子どもはいろいろなことを試します。自分自身の間からも興味の対象ですし、からだを使って子どもはいろいろなことをします。子どもにとっては楽しいことであり、すべてが学びです。そして、立ち上がれば倒れます。歩き出せばつまずき、転びます。走れば転び方も大きくなります。園庭の真ん中で元気に追いかけてっこをしている年中児や年長児も転びます。

どんな転び方であっても、歯が折れるかもしれませんし、骨折するかもしれません。まったくケガをしない時もあるでしょう。保育と教育の専門家として私たちは、「子どもがする必要のないケガ」はできる限りさせない努力をします。「子どもの命を守る」取り組みもします。成長発達に合わない活動や明らかに危険な活動はさせませんし、そういった活動でお子さんがケガをした場合には、私たちの取り組みと活動を見直します。けれども、成長発達に合った活動、子どもの育ちにとって必要な活動によって起こるケガについては、「育ちにとって必要なこと」として、保護者の皆さまのご理解をお願いしたいと考えます。

子どもたちは毎日、いろいろなことが少しずつできるようになっていきます。私たちは専門家として、いろいろなことが安定してできていくように支援し、新しいことに挑戦できていくように促していきます。たとえば、跳び箱を跳べるようになるまでに、子どもたちは乳児期からさまざまな運動遊びをし、からだを動かし、「跳び箱を跳ぶ」という動きにつなげていきます。乳児期の運動遊びの中でも、転んだり、滑ったり、ぶつかったりして小さなケガは起こります。また、当園は乳児期の学びが大切だと考えるからこそ、0歳児から運動会やお遊戯会等の行事を初めたくさん経験させてあげたいと考えています。

私たちはこれから、それぞれのお子さんの「でき始めていること」「できるようになってきていること」「新しく挑戦しているけれども、まだできないこと」などを保護者の皆さまにお伝えしていきます。子どもたちが成功したことだけでなく、失敗したこともできる限りたくさんお伝えしていきます。保護者の皆さまに、子どもたちが頑張っている姿、「負けたけど楽しかった！」「今度は頑張る！」という前向きな姿、「痛くないよ！ これくらい平気！」という乗り越える姿をお伝えすることも、私たちの仕事だと考えているからです。

保育園の活動について、お尋ねや、「これはちょっと心配…」「これはこういうふうにしてみては？」といったご意見がありましたら、園長または職員にいつでもお伝えください。皆さんのお子さんが、どんなことにもでも挑戦し、痛みも乗り越え、心身ともにたくましい子、よく遊ぶ子、意欲のある子、思いやりのある子に育つよう私たちも力を尽くしますので、どうぞよろしくお願いたします。